2016年度目録委員会記録 No.6
第6回委員会

日時：2016年10月1日（土）14時～17時
場所：日本図書館協会
出席：渡邊委員長、木下、河野、田代、津田、野美山、平田、村上、横山
＜事務局＞磯部

［配布資料］
1. 刊行に向けてのメモ（2016.10）（2ページ-A4）（渡邊委員長）
2. 付録#A.1 片仮名表記法（7ページ-A4）（村上委員）
3. 2016年度第5回目録委員会記録（案）（5ページ-A4）
4. 2016年度第4回目録委員会記録（4ページ-A4）

［報告事項ほか］
1. 議事録の確認
2016年度第5回目録委員会記録（資料3）について確認した。

2. 新NCRの刊行に向けて
資料1に基づき、今後のスケジュールの確認や、検討集会の開催、刊行形態、規則の名称について議論を行った。
・次のものを、11月に委員会とNDLの合意案（暫定案）として公開する予定である。これによって、検討集会までに公開する案の主要部分が揃うことになる。これらと整合性をとって、過去に書誌調整連絡会議に公開された案にも修正作業が必要となるが、11月の時点では行わない。
序説
#0：総説
#1：属性総則
#2の一部：体現形通則、個々のエレメント
#3：個別資料、個別資料の注記
#4の一部：著作の内容
#5の一部：表現形の内容、表現形の注記
#12：場所
#41～#44、#46：関連
#C.1、#C.2：関連指示子の一部
・各章間の整合性や、これまでの書誌調整連絡会議等で挙げられた残課題に係る対応を、2

月の全体条文案公開に可能な限り反映したい。

［検討事項］

1. 片仮名表記法

資料 2 に基づき、次のとおり議論した。

・片仮名表記法に分かち書きの規定を入れるべきかという問題がある。今回の案ではまだ対応していない。

・現 NCR の規定を基に、各機関の運用で述べられていることを組み入れるかどうか検討しているところである。

・数字、記号、ラテン文字の片仮名表記について、前回の検討では、読みが情報源にあるものを対象にし、そうすればこの片仮名表記法に規定する必要はないとされた。しかし、NDL や TRC の運用を組み入れることを考えるとき、数字、記号、ラテン文字から片仮名表記を案出するための規則を落としてよいかという点を改めて確認する必要があると考える。今回の案では、これを含んだものにしている。

・発音を二つ以上もつ語については、権威ある国語辞書、人名辞典等によって、読みの統一を図ることが、NII では定められている。これは規定に盛り込むことにする。

・片仮名表記法は、属性総則#1.12 に定めるところにより、①読みを表記するとき、②表示されたアルファベット等をその発音に従って表記するときの両方に用いられる。

・助詞「ハ」「ヘ」「ヲ」は、現 NCR と同じく「ワ」「エ」「オ」と表記するものとするが、「ハ」「ヘ」「ヲ」と表記する方法を考慮し、別法を置くか検討した（属性総則案ではいずれかを選択する案がコメントに記されている）。統一したほうがよいとの判断から、別法は置かない。

・「倫敦→ロンドン」など「漢字で表示されている外国語」（現 NCR）は立項せず、漢字仮名まじり形（→漢字、仮名）の例示の一つとして収める方がよい。

・現 NCR では、和語、漢語は第 1 表を、外来語は第 1 表および第 2 表によって表記する。しかし、漢語については、第 2 表の表記を用いることは通常なく、外来語を特に扱うために表を分けておく必要はないと考えられる。両表を統合し、規定を簡略化する。

・「2 日制→フツカセイ」などアラビア数字の読みについて、NDL と TRC はアラビア数字のままの表記で不自然なものは片仮名で表記する旨を定めているため、ここに立案した。現 NCR では不足している規定として、新 NCR に採用すべきか問題になったが、各機関が普遍的に採用している運用でない限りは規則に定めないほうがよいという意見があった。しかし、採否については結論に至らず、当面は残しておく。

2. 用語解説

次の点を確認した。

・例えば、エレメント「著作の識別子」、「体現形の識別子」は、用語解説では識別子のグ

ループとしてまとめて並べられるように、それぞれ「識別子（著作)」、「識別子（体現形)」などと表記した方がよいと思われる。この場合、エレメント名からの参照指示を設ける。

次回以降の委員会の予定
11 月 5 日（土）
12 月 17 日（土）
2017 年 1 月 21 日（土）

以　上